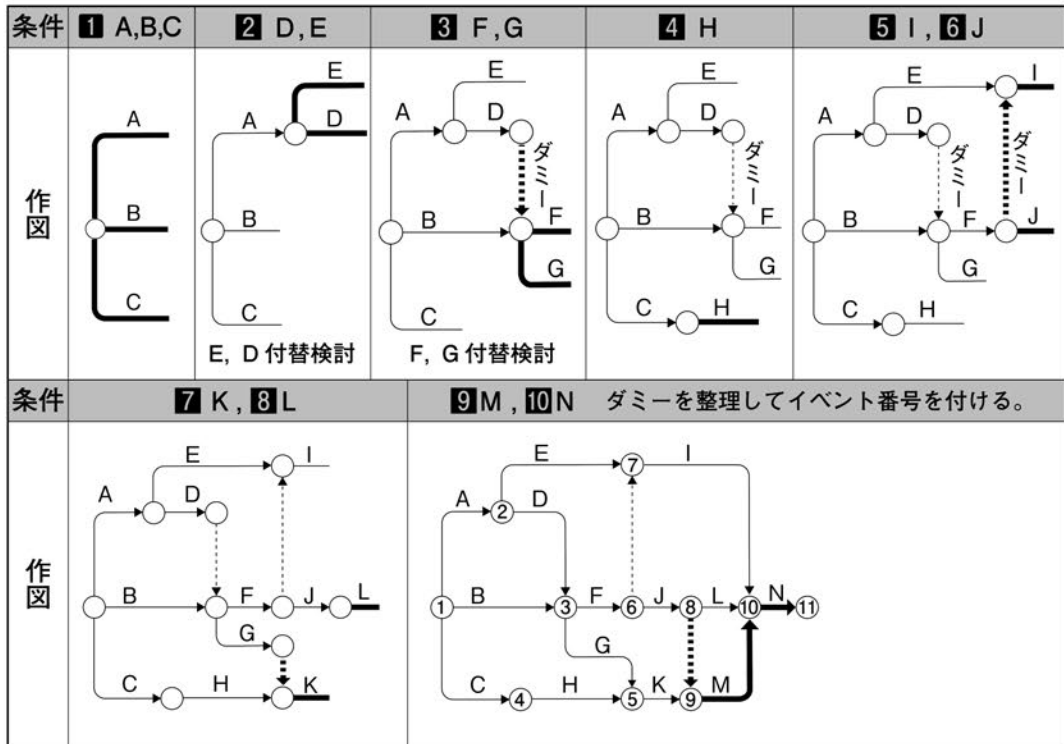
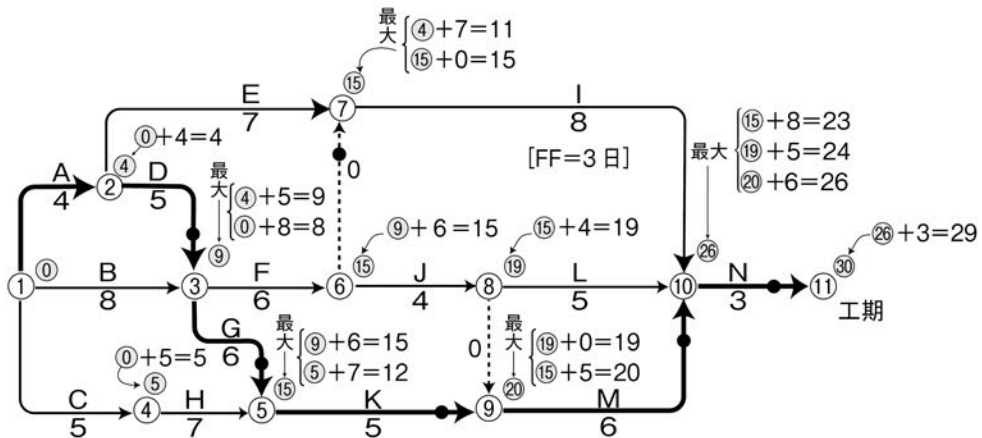


(2) 作業リストの順に、ネットワーク工程表を構築する。



(3) ネットワーク工程表のように、イベント番号①、②、・・・、⑪として、各イベントの最早開始時刻を計算する。最終イベント⑪の最早開始時刻が所要工期となる。

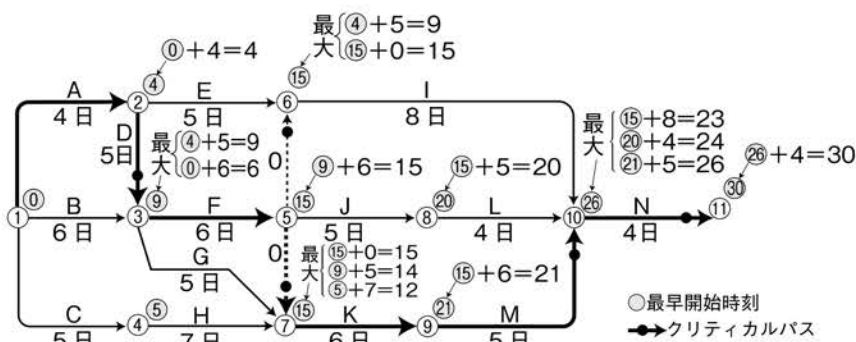


(4) 作業 I のフリーフロート (FF) を計算する。フリーフロートは、「終点イベントの最早開始時刻 - (開始イベントの最早開始時刻 + 作業日数)」なので、作業 I のフリーフロートは、 $FF = 26 - (15 + 8) = 3$  日である。

(1) 所要工期	29 日
(2) 作業 I のフリーフロート	3 日

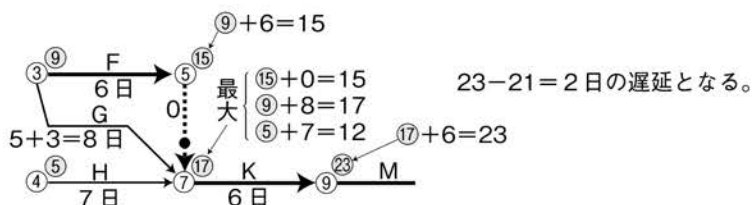
### (3) ネットワークの最早開始時刻の計算

構築したネットワークのダミーを整理し、所要日数、イベント番号等を記入し、流入矢線の最大値より、最早開始時刻の計算をする。



### 解答

- (1) 所要工期は、イベント⑪の最早開始時刻で30日である。
- (2) 作業Mの最早開始時刻は⑲なので、作業Gが3日増加したとき、作業Gを $5+3=8$ 日として、作業Mの最早開始時刻を再計算すると⑳となる。



以上より、作業Gが3日増加すると作業Mの最早開始時刻は⑳日であるから、 $23-21=2$ 日間の遅延となる。

(1) 所要工期	30日
(2) 作業Mの最早開始時刻の遅延日数	2日